

一般会計とは…

市の基本的な仕事(福祉、教育など)を行う予算です。主に市税で賄っています

特別会計とは…

国民健康保険など特定の事業を行うために、一般会計と分けて設けられている独立した予算です(全6会計)

企業会計とは…

自らの収益で運営している上下水道事業のことです

令和7年度
古河市の**予算**

一般会計 **603.4億円**
(前年度比 10.8%増)

今年度の一般会計当初予算額は603.4億円。前年度と比較して58.9億円(10.8%)の増額となり、過去最大の予算額となりました。予算編成においては「第2次古河市総合計画」の第Ⅲ期基本計画で掲げる「華のある都市古河」の実現に向けて「地域の特性を活かした、仕事をつくる」「移住と定住を促し、新しい人の流れをつくる」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「安心な暮らしを守り、魅力的な地域をつくる」「GX・DXの加速、EBPM(証拠に基づく政策立案)による行政経営」に関する取り組みに重点を置いています。限られた財源を有効活用し、市が直面する喫緊の課題に迅速・的確に対応するための予算となっています。

扶助費が過去最大

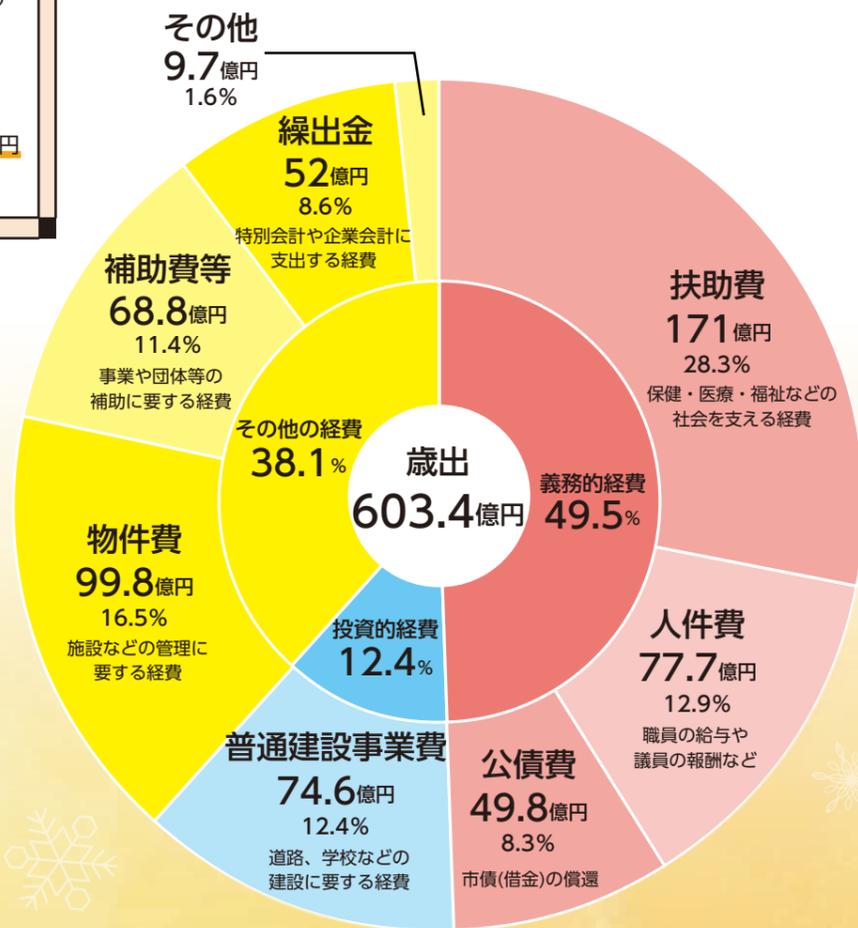
扶助費は、高齢化の進展や障がい福祉サービス利用の増加、また子育てをしている人たちへの支援拡充により年々増加していることから、昨年度に比べ17.6億円の増加となります。

■扶助費の増加額
R6当初:153.4億円
R7当初:171億円 **+17.6億円**



古河市が支払うお金の内訳

一般会計 **歳出**



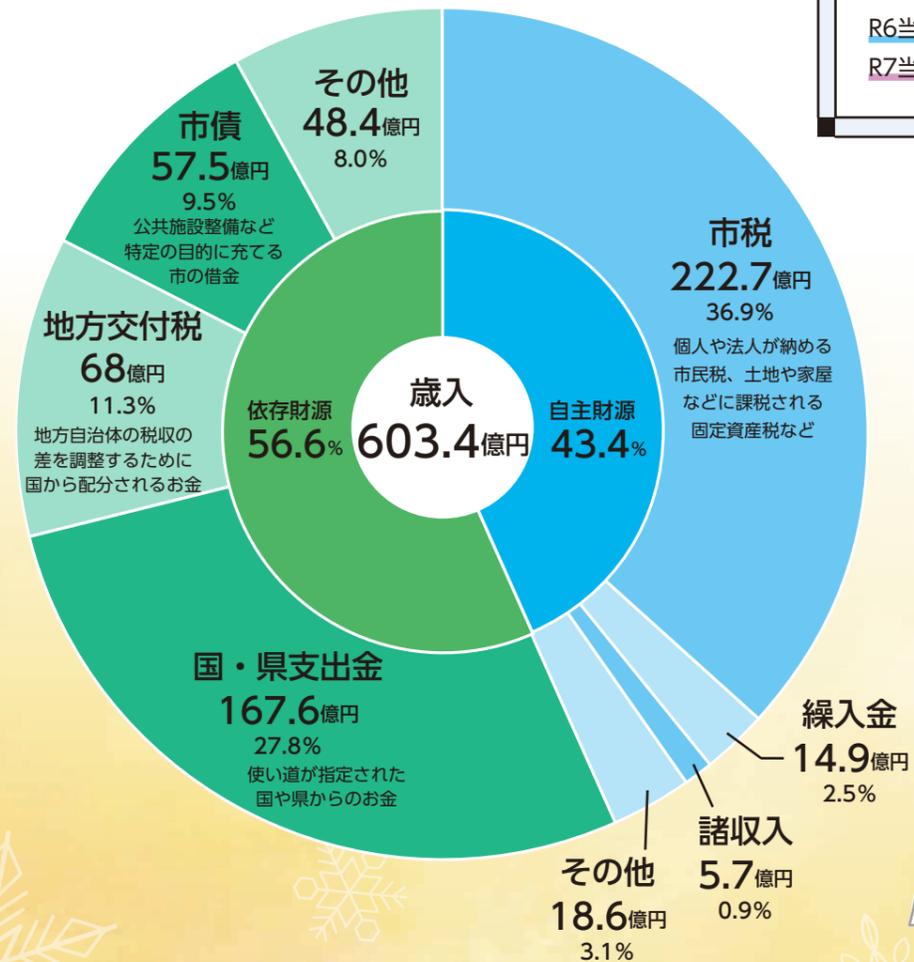
義務的経費と投資的経費とは？

扶助費や人件費など、支出が義務付けられているため簡単に削減できない経費を義務的経費と言い、道路や学校などの建設に要する経費を投資的経費と言います。

※端数処理により数値が一致しない場合があります。

古河市に入るお金の内訳

一般会計 **歳入**



過去最大の税収額

市税は、定額減税の終了や所得の増加などにより個人市民税の増額が見込まれることから、昨年度に比べ13.5億円の増加となります。

■市税の増加額
R6当初:209.2億円
R7当初:222.7億円 **+13.5億円**



自主財源と依存財源とは？

市が自ら徴収するお金である自主財源に対し、国や県から定められた目的のために交付されるお金を依存財源と言います。自主財源の割合が大きいほど、行政運営がしやすくなります。

令和7年度

5つの重点施策と

その他の取り組み

詳細は
市ホームページで
確認できます



若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

新規 こどもの居場所づくりを支援 ▶3,176万円

こどもの権利を保障し、こどもを誰一人取り残さず、健やかな成長を社会全体で後押しする「こどもまんなか社会」の実現を目指します。この取り組みの一つとして、こども食堂をはじめとする居場所づくりに向けてコーディネーターを設置し、実施団体の育成や運営支援等を行います。また関係団体との連携を強化・充実させることで、困難を抱えるこどもを早期に支援できる体制を整備します。

継続 給食費の無償化・食物アレルギー等および市外通学者支援 ▶4億3,281万円

昨年度から実施している小中学校給食費の無償化を継続し、子育て世帯の経済的負担軽減を図ります。また食物アレルギー等により給食の提供を受けていない児童生徒や、市外へ通学する児童生徒に対する支援も継続し、一人一人に寄り添ったきめ細かな支援を行います。

安心な暮らしを守り、魅力的な地域をつくる

新規 ハザードマップの更新 ▶1,028万円

市民の防災意識の向上を図り、水害時の避難行動に役立てるため、県が管理する河川の浸水想定区域を反映したハザードマップを作成します。

継続 総和地域交流センターの整備 ▶14億5,665万円

12月の開館に向け、建設工事を行っています。引き続き、安全に配慮しながら着実に整備を進めます。



GX・DXの加速

新規 電子図書館の導入および図書システムの更新 ▶8,464万円

9月から電子図書館を開始し、いつでもどこでも読書ができる環境を整備します。また図書館システムの更新に併せ、LINE機能を用いた蔵書検索やオンラインによる利用登録のほか、スマホでの利用証提示などのデジタル化を進め、利便性向上と読書環境の充実を図ります。

地域の特性を活かした、仕事をつくる

継続 新たなまちづくり拠点と産業用地の創出 ▶7,774万円

未来産業用地開発事業において「大堤地区」では、基礎調査の一環として開発による交通影響調査を実施しており、最適な道路網と施設規模を検討します。「東山田・谷貝地区」では、立地企業4社による造成工事が進んでおり、市においても円滑な事業の進捗に向け、周辺の道水路整備を行います。また、約9.5ヘクタールの北側拡張エリアについて、地権者の意見を踏まえながら、新たな企業の誘致を進めます。



移住と定住を促し、新しい人の流れをつくる

継続 若い世代の移住・定住の促進 ▶3,580万円

市内居住誘導区域で新たにマイホームを取得する39歳以下の若者世帯や、15歳以下の子どもを養育する子育て世帯に対して引き続き奨励金を交付し、移住・定住の促進を図ります。



継続 新たなまちづくりの構想検討 ▶658万円

昨年度に実施した、大堤南部地区全体のまちづくりの方向性や整備手法等の検討調査を踏まえ、整備手法別の構想案を検討し、事業化に向けたまちづくりの方針をまとめます。



市民協働

地域 みんなでまちづくり



新規 SDGs未来都市推進事業支援補助金の創設 ▶100万円

SDGs未来都市推進事業支援補助金を新たに創設し、古河市SDGsパートナー等による民間主体の取り組みを支援します。市民・企業・行政などが連携しながら、地域におけるSDGsの普及・展開を推進します。



産業労働

活気とにぎわいのあるまちづくり



新規 市内空き店舗の実態調査 ▶1,788万円

市内にある空き店舗の有効活用を図るため、地域の商業環境や消費者ニーズの調査・分析を行います。分析結果を基に関係機関と連携しながら、出店希望者とのマッチング支援等を実施し、商店街の活性化やまちのにぎわい創出を目指します。



生活環境

安全で快適なまちづくり



継続 一般廃棄物処理施設将来構想の策定 ▶1,725万円

市内ごみ処理施設の老朽化等の現状を踏まえ、安定かつ効率的なごみ処理を行うために、どのような施設が必要となるかについての検証を進め、構想を策定します。

都市基盤

魅力的で利便性の高いまちづくり



新規 公園施設の計画的な維持管理 ▶1,300万円

公園施設の安全確保と維持管理を計画的に行うため、長寿命化計画を策定します。国の交付金等を活用しながら計画的な修繕を行うことで、施設の長寿命化を推進し、ライフサイクルコスト(施設等の計画・設計から解体までの全期間にかかる費用)の削減と修繕コストの平準化を図ります。



行財政

まちづくりを支える行政経営



継続 市の魅力発信 ▶2,529万円

ブランド戦略「こがくらす」について、引き続き動画制作ワークショップを実施するとともに、古河の魅力を共有する新たな取り組みとして、動画コンテストを開催します。



健康福祉

互いに支え合うまちづくり



新規 1カ月児健診に対する一部公費負担の開始 ▶482万円

安心して子育てができる環境の整備に向け、1カ月児健康診査にかかる費用の一部を助成し、乳児の疾病の早期発見と健康の保持・増進を図ります。



新規 骨粗しょう症検診に対する一部公費負担の開始 ▶275万円

骨粗しょう症になるリスクが高い女性を対象に、骨粗しょう症検診にかかる費用の一部を助成し、生涯にわたる市民の健康づくりを支援します。



拡充 地域相談支援センターの増設 ▶110万円

障がい者やその家族から地域相談支援センターへ寄せられる相談件数は年々増加し、相談内容も複雑化・多様化しています。そのため、同センターを1カ所増設し、充実した相談支援を行います。

教育文化

人が育ち文化の息づくまちづくり



新規 校内教育支援センターの設置 ▶3,353万円

不登校から学校復帰する段階や不登校の兆候が見られる生徒に対して、自分のペースで学習・生活できる環境を整備し、学校内での居場所を確保するため、各中学校に校内教育支援センターを設置し、指導員を配置します。



新規 小中学校ICT教育 タブレット端末の更新 ▶6億230万円

児童生徒に1人1台の端末を整備してきましたが、導入から5年が経過したため、今年度から2年間で端末を更新し、充実した教育環境を維持します。



継続 小中学校等避難所施設への空調機整備 ▶15億1,375万円

指定避難所となっている小学校15校と中学校6校の体育館に空調設備を整備します。また三和図書館の空調設備とトイレ改修を実施し、避難所としての機能強化を図ります。

継続 古河第一中学校の長寿命化 ▶6億4,329万円

長寿命化対策に引き続き取り組みます。今年度から2年間で普通教室棟の改良工事を実施します。